



建築人

7

2015

昭和三十三年三月
六次市立建築

30 24 22 16 12 10 9 8 7 6 4 2

大阪ホンマもん
インフォメーション・事業案内
動静レポート
Topics
平成27年度 定時総会・行事
記憶の建築 松隈洋
京都市蹴上浄水場 一九六二年 命の水をたたえる生活基盤施設
匠の巧
頭脳を持った次世代ガラス
サンゴバン・ハンダラス・ジャパン株式会社・株式会社CLAP
Gallery 建築作品紹介
兵庫医科大学健康医学クリニック
設計 鹿島建設関西支店 施工 鹿島建設関西支店
ヤマハ大阪ビル
設計 竹中工務店 施工 竹中工務店
ENDO 堺筋ビル
設計 日建設計(基本設計・意図伝達・大成建設 施工 大成建設)
第7回建築人賞発表
ひろば『今、自治体のアツイところ』高槻市 佐竹真一
「住みやすさナンバーワン」のまちを目指して―景観屋外広告物行政の取組―
建築の射程 木村日出夫
「1000KITA PROJECT」について―市営住宅を活用した新しいまちのかたち―
京都市の市営住宅を活用した地域再生の実験
理事会報告 建築相談 編集後記

建築人

目次

7
2015

多様性を新しい価値へ

大阪府建築士会副会長 中嶋節子

このたび平成二十七年年度の副会長を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが、大阪府建築士会に少しでも貢献できるよう努力する所存です。ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

私はこれまで、研究者として建築や都市にかかわる仕事をしてまいりました。研究者と建築士会との接点はそう多くない中で、講演会や見学会、調査にお声掛けいただくなど、大阪府建築士会とは十五年以上のお付き合いをさせていただいています。研究者といった異質の存在に対しても、オープン・マインドな雰囲気、建築士会の懐の深さや見識の高さを感じてきました。建築や都市を支える職能や人材は実に多様です。そうした多様な人々が出会い、新しいムーブメントを誘発するプラットフォームであることが、建築士会の役割のひとつと考えています。そこには、新しい価値が生まれる契機があります。多様性に満ちた大都市大阪ではその可能性は無限です。可能性を現実にするために、建築士会に求められるのは、「場」の創出とマネジメント能力と考えています。

建築士会のさまざまな活動において、すでに大きな成果があげられてきましたが、多様性を味方に、大阪ならではの自由で活発な建築士会を目指して、ますますの充実を図っていく所存です。みなさまのご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市中心部に特徴的な外壁を纏ったビルが御堂筋沿いに建っている。ビルの名は「御堂筋ダイビル」。

元の建主は東洋工業(現マツダ)で、自動車メーカーの大阪支社として計画された。当時、金属外壁の大型ビルをたくさん手掛けていた竹中工務店の設計・施工が進められた。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造で、規模は地下三階、地上八階建て。東京オリンピックが開催された昭和三九年(一九六四年)に竣工した。

設計者は建築も工業製品のように見立て、外壁等をユニットにして工場で組立てる方式をとり、建築工業化・意欲的に取り組んだ。その結果、昭和四二年(一九六六年)にBSC賞を授賞し、平成二六年(二〇一四年)には「生きた建築ミュージアム大阪セクション」に選定されている。現在はダイビルが所有するテナントビルで半世紀たった今も現役だ。懐かしくも未来を感じさせるメタリックな外壁は美しい。時代を伝えるビルディングタイプの要素を備えた貴重な存在と言える。

建築人 7 2015

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表 米井 寛 飯田英二
編集人 荒木公樹 黒川祐樹
河合哲夫 中江 哲
筑波幸一郎 牧野隆義
橋本頼幸 母倉政美
事務局 山本茂樹
印刷 中和印刷紙器株式会社



大阪ホンマもん

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けますのでどうぞ活用ください。

（業務内容）
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画案の審査、評価等
(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

（会員特典）
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。詳細は、本会ホームページをご覧ください。

第35回大阪都市景観建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)推薦募集

7/1～7/31

周辺環境の向上に資し、かつ、景観上優れた建物やまちなみを表彰します。推薦用ノギキもしくは、HPからの電子推薦も受付ています。白薦もございしますので、白薦専用書式をHPからダウンロードしてください。

主催　大阪府・大阪市・(公社)大阪府建築士会・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会

受付期間　7月1日(水)～7月31日(金)
対象　大阪府内の建物及び建物を中心としたまちなみ
建物：平成22年8月19日から昨年7月31日までに完成したのもの
まちなみ：昨年7月31日までに完成したもの
詳細は大阪まちなみ賞HPをご覧ください。
http://osaka-machinami.jp/

問合せ　大阪都市景観建築賞運営委員会事務局
(大阪府建築士会内)
Tel.06-6947-1961

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助登録有形文化財寺西家における地域活性化事業

7/5-7/11

場所　登録有形文化財寺西家
(Tel.06-6624-7618)
大阪市阿倍野区阪南町1-50-25
最寄駅　地下鉄御堂筋線「昭和町駅」下車
徒歩1分
4番出口すぐ右折れ一つ目辻右折れスグ

①「手作り梅干し」を登録有形文化財で楽しむ
登録有形文化財寺西家で無農薬・オーガニック梅を使用し、手作り梅干し講習会を開催します。そのままでは食べれない梅を梅干しや梅酒などにして食べる昔ながらの知恵、梅しごとは、残したい日本の食文化です。

日時　7月5日(日)
1部　10:00～12:00(定員10名)
2部　13:00～15:00(定員10名)
参加費　材料代2,500円

②「落語」を登録有形文化財で楽しむ
登録有形文化財寺西家で毎月、落語会が開催されています。大正末に建てられた町家で、三味線や太鼓の囃子がはいる本格的な上方落語を間近で楽しめます。又、最後に近隣店から提供されたお土産の抽選会もあります。

日時　7月11日(土)　午後2時間演
<7月文月席>
1.立候補……桂　三幸(六代目文枝門下)
2.近日息子……桂　文太(五代目文枝門下)
3.転転気……桂枝女太(五代目文枝門下)
4.お楽しみ……桂　文太(五代目文枝門下)
入場料　当日1,800円　前売・会員1,500円

二級建築士/設計製図　受験対策講習会

実力養成コース　7/12～9/6
直前対策コース　8/23～9/6
模擬テストⅠ・Ⅱ　8/2、9/6

試験合格だけでなく、実務に活用できる技術指導を行います。

■実力養成コース(模擬テスト2回含む)
日程(10日間)
7/12(日)、7/19(日)、7/20(祝)、7/26(日)、8/2(日)、8/9(日)、8/16(日)、8/23(日)、8/30(日)、9/6(日)
時間　9:15～16:45
定員　15名(申込先着順)
受講料　会員120,000円　一般140,000円

■直前対策コース(模擬テスト1回含む)
日程　8/23(日)、8/30(日)、9/6(日)
時間　9:15～16:45
定員　20名(申込先着順)
受講料　会員40,000円　一般45,000円

■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程　Ⅰ:8/2(日)、Ⅱ:9/6(日)
時間　9:15～16:45
各回定員　25名(申込先着順)
各回受講料　会員13,000円　一般15,000円
会場　(各コース共)大阪府建築健保会館
最寄駅　地下鉄「谷町4丁目」下車

平成27年度文化庁文化芸術振興費補助貝塚寺内町と紀州街道まごど博物館～夏の特別展～

7/18・7/19

貝塚寺内町の産土神である感田神社(貝塚市中町所在)の例祭が7月18日(土)、19日(日)に行われ、勇壮な7台の太鼓台が氏子町より担ぎ出され、寺内町を練り回ります。本宮には神輿の渡御が行われ、この渡御に猿田彦命が先導役として奉仕されます。この猿田彦命は、寺内町の御下筋と呼ばれる地域の有力な町衆によって天保以前から奉仕されてきています。今年は、国登録有形文化財である利齋家住宅に猿　田彦命の面、太刀、衣装等一式を展示し、隣接する貝塚太鼓台資料館に展示している貝塚型の先代中町太鼓と堺市の新在家濱の中太鼓を公開し、俗に貝塚宮と呼ばれるこの祭礼の歴史を紹介するとともに、付近に点在する13軒の国登録有形文化財の町家巡りを行います。

日時　7月18日(土)、19日(日)
12:00～21:00
場所　国登録有形文化財　利齋家住宅
貝塚市北町18-3

最寄駅　南海本線「貝塚駅」下車
※感田神社は南海本線「貝塚駅」西側へ出て、徒歩3分。

長期優良住宅リフォーム推進事業講習団体登録予定**建築士会インスペクター養成講座**
8/11・10/20　CPD5単位

わが国でも中古住宅の流通の取組みが活発化しており、中古住宅売買時のインスペクション(住宅診断)のニーズが高まっています。国土交通省は平成25年6月にガイドラインを策定し、指針を示しました。日本建築士会連合会は、長期優良住宅化リフォーム推進事業におけるインスペクター講習団体として国土交通省に登録予定しており、本講座修了者は、建築士会インスペクターとして登録(3年更新)され、建築士会ホームページに掲載します。

日程　①8月11日(火)　②10月20日(火)
時間　10:00～16:30
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
定員　各100名(定員になり次第締切)
受講料　会員12,000円　会員外17,000円
(テキスト代・登録料含む)

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/18・1/19　CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがって、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程　①8月18日(火)　②1月19日(火)
時間　10:00～16:30
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅　地下鉄「谷町四丁目」下車
定員　各150名(定員になり次第締切)
受講料　会員6,000円　会員外8,000円
テキスト代　4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

被災建築物の応急危険度判定士養成講習会

本講習会は、地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。建築士であれば本講習の受講により判定士として認定し大阪府に登録されます。

日程　①8月19日(水)　②10月21日(水)
③12月16日(水)
④平成28年2月17日(水)

時間　13:20～17:00
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
定員　各150名(定員になり次第締切)
受講料　無料
テキスト代　1,500円(被災建築物応急危険度判定マニュアル)
申込受付　一般財団法人大阪建築防災センター
※大阪建築防災センターのホームページ
http://www.okbc.or.jp/

一級建築士/設計製図　受験対策講習会

課題解説・エスキース　8/22
模擬テストⅠ・Ⅱ・Ⅲ　9/12、9/19、9/26

試験合格だけでなく、実務に活用できる技術指導を行います。模擬テストは通信講座もございますので、通学のお時間がとれない方はぜひご検討ください。

■課題解説・エスキース
本試験課題の設計に必要な計画、構造、法規等について解説のうえ、エスキースの指導を行います。
日程　8月22日(土)
時間　9:00～17:00
定員　40名(申込先着順)
受講料　会員12,000円　一般14,000円

■模擬テスト
本試験と同じ6時間半で製図していただいた図面を講評、指導します。また、宿題課題の添削も行います。
日程　Ⅰ:9/12(土)、Ⅱ:9/19(土)、Ⅲ:9/26(土)
時間　9:00～18:30
定員　【各回】40名(申込先着順)
受講料　【各回】会員14,000円　一般18,000円

会場　(上記のいずれも)大阪府建築健保会館
最寄駅　地下鉄「谷町4丁目」下車
■【通信講座】模擬テスト
郵送で届く課題の製図を自宅で行いご返送ください。後日、添削のうえ返却いたします。ご自宅への課題到着予定日

Ⅰ:9/12(土)、Ⅱ:9/19(土)、Ⅲ:9/26(土)
定員　【各回】20名(申込先着順)
受講料　【各回】会員12,000円　一般15,000円

平成27年度大阪府ヘリテージマネージャー育成講座(全10日間)

8/29～2/6　CPD1日4単位(予定)

本講座は、文化庁の補助を受け大阪府のさらなる歴史文化遺産を発見し、既に指定されている文化財建造物や登録文化財等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材“ヘリテージマネージャー”を育成することを目的に行う講習会です。全10日間の講座で歴史、修復技術、実測実習、保存活用などの基礎を学びます。

日程　①8月29日　②9月5日　③9月26日
④10月10日　⑤10月17日
⑥11月7日　⑦11月28日
⑧12月5日　⑨1月16日　⑩2月6日
(全10日間・土曜日)
時間　13:00～17:00(全日共　但し11月7日のみ10:00～14:00)
場所　大阪府建築士会内会議室他
募集　30名(申込先着順)
受講料　本会会員25,000円　会員外30,000円
申込　7月13日(月)より本会ホームページからWEB申込してください。
※詳細は本会ホームページをご覧ください。
問合せ　社会貢献委員会

大阪府知事指定講習　平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》

9/8・12/8・2/9　CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。

(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講修了する必要があります。)
日程　①9月8日(火)　②12月8日(火)
③平成28年2月9日(火)

時間　10:00～15:50
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅　地下鉄「谷町4丁目」下車
定員　各150名(定員になり次第締切)
受講料　会員5,000円　会員外9,000円
テキスト代　7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

第58回建築士会全国大会「石川大会」

テーマ　百万石の地で触れよう
未来につなぐ　まちづくり
期日　10月30日(金)
会場　石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢
※地域交流見学会(エクスカーション)は

10月31日(土)に実施
参加される本会会員には大会登録料5,000円を補助します。
申込　建築士5月号P28の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。
締切　7月31日(金)
大会の詳細は本会HPもしくは「建築士5月号」をご覧ください。

平成27年度建築士定期講習

12/22、1/28、2/24、3/24　CPD各6単位
建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成24年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程
12/22(火)定員300名
会場コード5C-03
1/28(木)定員300名
会場コード5C-53
2/24(水)定員300名
会場コード5C-04
3/24(木)定員300名
会場コード5C-54
時間　9:30～17:30
会場　大阪国際会議場
最寄駅　京阪中之島線中之島駅下車
申込締切日(申込書必着)
12/22(火)講習:11/17(火)
1/28(木)講習:12/25(金)
2/24(水)講習:1/20(水)
3/24(木)講習:2/26(金)
※簡易書留での郵送のみ受付いたします。
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料　12,960円(消費税込)
申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
http://www.nishi.or.jp/

事務局からのお知らせ

2015年版会員名簿の掲載事項について

9月刊行予定の会員名簿につきましては、掲載事項が①氏名②勤務先名③勤務先住所・電話・Fax④建築士級別(正会員のみ)となっております。つきましては、A.氏名以外(②～④)に掲載しない。B.連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。のいずれかを希望される場合は、7月17日(金)までにFaxまたは郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします(既にご連絡をいただいている場合は不要です)。

■**本会の催し参加問合せ・申込先**
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

第6回 西宮市都市景観賞応募・推薦作品を募集

西宮市では、美しいまちなみづくりに貢献している建築物等や活動を表彰する「西宮市都市景観賞」を今年度実施します。
1.応募・推薦の対象
表彰部門は、まちなみ建築部門(建築物(建築群、工作物等を含む))、屋外広告デザイン部門(屋外広告物)、まちなみづくり活動部門(行為・活動)の3部門です。また、応募作品は、市民が選ぶ「まちなみ発見クラブ賞」の選考対象にもなります。

※被推薦者が辞退したもの、公共事業によるもの、場所・表彰相手が特定できないもの、関係法令・条例に違反しているものは対象となりません。

2.応募・推薦期間
6月10日(水)～7月31日(金)
※当日消印有効
3.応募・推薦の方法
E-mail、郵送又は窓口にて受付します。詳細は西宮市のホームページをご覧ください。
4.送付・問合せ先
西宮市都市計画部景観まちづくり課
〒662-8567 西宮市六湛寺町10-3
Tel.0798-35-3526/Fax.0798-34-6638
http://www.nishi.or.jp/

第16回 堺市景観賞　あなたのお気に入りの「堺」を募集

堺市内の優れた景観を有する建築物、工作物、広告物の所有者等、まちなみ及び良好な景観形成に貢献する活動を行っている人々を堺市長が表彰することにより、市民及び事業者とともに魅力ある都市空間の形成を推進するものです。景観形成に寄与している建築物や景観活動、地域が誇る素晴らしい景観などをご推薦、ご応募ください。
推薦・応募期間
7月1日(水)～8月31日(月)(必着)
応募対象、推薦・応募方法など詳細は下記までお問い合わせください。
問合せ　堺市建築都市局都市計画部都市景観室「堺市景観賞」担当
Tel.072-228-7432
Fax.072-228-8468
E-mail tokan@city.sakai.jp
http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/toshikeikan/index.html

「CADオペレーター」の求職情報

大阪府立芦原高等職業技術専門校の生徒をご採用下さい

芦原技術専門校は、大阪府が設置する公共職業訓練施設です。

INFORMATION

同校の「建築内装CAD科」では、建築やインテリア業界で活躍できる人材を育成するため、製図、建築CAD、積算や各種建物の基礎知識、インテリアコーディネート、プレゼンテーションの手法などの訓練を行っています。
訓練生は修了後の就職先として建築事務所や工務店等での就職を希望しています。
求人をお考えの企業の方は、是非、同校までご連絡ください。
なお、在校生のプロフィールはホームページで公開しています。

http://www.pref.osaka.lg.jp/tc-ashihara/top-page/jigyonushi.html
問合せ　芦原技術専門校就職担当
Tel.06-6561-5383

(参考)建築内装CAD科の概要
訓練期間:6カ月(9月・3月修了)
定　員:各20名
取得資格:CADトレース技能審査等

Others

その他のお知らせ

懐かしい明治大正昭和の時代の建築たちの現況をスライドで見ながら、中日友好について考えます。

日時　7月18日(土)　11:00～
会場　堺市立東図書館(南海高野線北野田駅前)
講師　明治建築研究会代表　柴田正己
■ミニ写真展～懐かしい大阪の明治・大正・昭和の建築たち
時代の生き証人として親まれた名建築・大阪市中央公会堂、旧堺市庁舎、旧浜寺停車場等の写真展です。

日程　7月12日(日)～18日(土)
会場　ライフ初芝店1階階段室
(南海高野線初芝駅前)
問合せ　明治建築研究会
Tel.090-4289-1492

推薦・応募期間
7月1日(水)～8月31日(月)(必着)
応募対象、推薦・応募方法など詳細は下記までお問い合わせください。
問合せ　堺市建築都市局都市計画部都市景観室「堺市景観賞」担当
Tel.072-228-7432
Fax.072-228-8468
E-mail tokan@city.sakai.jp
http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/toshikeikan/index.html

「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事」改定講習会(大阪開催)

改定された「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事」をテキストに講習会を実施します。
主催　(一社)日本建築学会
日時　7月30日(木)　9:40～16:30
会場　大阪商工会議所7階国際会議ホール
大阪市中央区本町橋2-8
定員　400名
参加費　大阪士会会員18,000円(テキスト代含む)
問合せ・申込　(一社)日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538

改正建築基準法及び改正土法の解説講習会 知事指定講習

日程：平成 27 年 5 月 29 日 受講者 330 名

大阪城北側のドーンセンターの会場がほぼ満員の講習会でした。最近パブコメの募集等で事前に改正内容がわかるようになってきましたので、関係省庁からの押し付けの感じは無くなってきましたが、さて何が変わったのか、なぜ変えなくてはならないのか、設計事務所や施工会社にとっても業務に多大な影響を及ぼす法改正は、何とかあるだろうではやり過ぎません。しっかりと内容を理解し、後であわてない様にと話を聞いて参りました。さて詳しい改正内容は資料を読み直すこととして、構造屋の私の頭に残っている項目は、①木造の3階建て学校が準耐火構造等で設計できる、あまり仕事では無

いかな？②確認申請と適判申請が同時にできる、これは有利になるのかな？申請期間は短くなりそうだが、訂正はうまくできるかな？③ルート2は適判に行かなくて良い、最近の構造計算はほとんどルート3ですが、適判に行かないためにルート2で無理やり設計するのはいかなかな、部材が大きくなってしまおうかな？④旧38認定が復活する、使える物は使いましょう。土法も改正です、内容はとても簡潔にはまとめきれませんが、建築士としての業務や登録に関してよく理解しておく事でしょうか。基準法も土法の改正もこれから順次身近になってきます。すぐに理解するのは難しいですが、こういうのが

「未来へのメッセージ」横文彦氏講演会

日程：平成 27 年 5 月 28 日（平成 27 年度定時総会記念講演）

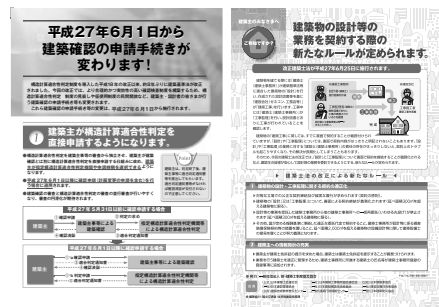
最初のスライドは、「漂うモダニズム」と題された 20 世紀初頭から現代までの建築設計の潮流を表したアブストラク的な図表から始まった。氏が建築を志した頃の建築界を「行き先の見えない舟」に乗り合わせた建築家達と譬え、希望と不安に満ちた壮大な夢を共有しながらライバル達と共に闘った頃と往時を振り返った。続いて「ヒルサイド・テラス」の話に移った。パブリック空間は、発注者や居住者のものだけではなく、時おり好んで訪れる唯一のものでもあることを、淡々と語る氏の他者への優しさと自らに課した厳しさには共感を覚える人も多いと思われる。続いてこれまで手掛けた多くの作品紹介に移ったが、氏の作品に共通するものは、大胆な空間構成、透明感・素材感・光・柔らかい色彩である。これらを駆使して完全な造型と無限のグラデュエーションを具現化するのが氏のデザインスタイルである。

最後の「4 World Trade Center 2014」は、あらためて語るまでもなく、「9.11」の再生プロジェクトである。マンハッタンのおちこちから撮影された「4WTC」は、ある時は、美しい姿を表し、ある時は周りの都市景観を映し、さらにある時は、空や雲と同化し存在を消す瞬間があると人々に語り継がれている。このことに関して、氏は詳しく言及しないが、全て意図の内であるかの様な表情を浮かべる。そうして形態的操作を極限まで捨象し、無限の心象の中から唯一片だけをきりと造形化した。さらに外壁にガラスを用いることにより、刻一刻と変化する環境を映しながら、無窮の存在感を持つ建築の全体像が実現したのである。横文彦氏の設計意図は、「4WTC」は、単なる鎮魂や反省のモニュメントであってはならない。平和を愛し、平和を守る責任感を共有し、普遍的な愛を育み、訪れた一人一人に人類への希望を託すという遥かで崇高な「未来へのメッセージ」であると理解したい。

樋笠康男（研修委員会委員）



有ったな、どうやったかな、と自分が関係する内容だけでもすぐに調べられる様にしておきたいと思います。大きな体の私には椅子が狭く、分厚い資料を小さいテーブルに広げての 4 時間、さて所員やお仲間達と今回もどうやって乗り越えていこうかと考えながらの講習会でした。



柳川陽文（名誉会長）



写真：Tectonic

会長動静（抜粋）

- 12/20 日本建設業協会総会懇親会
- 21 日本建築材料協会総会懇親会
- 26 近畿建築士会協議会女性部会
- 26 大阪建設業協会総会懇親会
- 27 連合会女性委員長協議
- 27 連合会正副会長会議
- 28 大阪府建築士会定時総会
- 28 釜山広域市建築士会懇親会
- 6/ 4 連合会国際委員会
- 11 連合会正副会長会議
- 12 連合会総会（議長）
- 13 建築4団体主催速水氏講演会
- 17 日本建築協会総会懇親会

運営委員会

「将来ビジョン検討委員会」の設置

本会活動の目的について定款では、「建築物の災害等から府民の生命及び財産の保護、建築物に係る府民の利益の擁護及び増進並びに建築文化の振興を図り、社会に貢献すること」としております。平成 25 年 4 月に本会が公益社団法人に移行して以来、防災、耐震、相談、まちづくり、ヘリテージ、インスペクション、鑑定、マンション維持管理等、特に社会貢献の活動を行う部署の新設・強化を図りこれまで一定の成果を上げています。しかし一方で、会員の高齢化及び会員数の減少が続いており、近年の決算は赤字ですが、安定的な財政を今後も維持するには、不安があります。また、定期的に行っている消費者団体との意見交換では、建築士の社会的な役割や貢献に対する一般消費者の認識がきわめて低く、建築士業務や活動の認知度を向上させる活動が求められます。そこで、本年度 4 月に会長指名による 11 名の委員から構成する「将来ビジョン検討委員会」を設置しました。委員会では本会活動の目標として、定款に沿った短期・中長期的な視点での将来ビジョンの策定と、そのビジョン達成を目指す具体的な活動方針を併せて議論しています。委員会は月 1 回のペースで開催されており、近々に提案書を取りまとめて理事会に諮り発表する予定です。

事業委員会

国土交通省補助事業「住宅省エネ設計講習会」の準備

国土交通省・経済産業省・環境省が設置する「低炭素社会に向けた住まいと住まい方会議」では、2020 年までにすべての新築住宅を対象に、新省エネ基準への適合の義務付けを決定しました。本年度は、国土交通省の補助事業である「大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会」を本会が受託し 8 月から開催することとなり、現在、準備を進めております。講習では木造戸建住宅を対象に、平成 25 年度改正省エネルギー基準に基づき、外皮計算の計算過程を学んでいただく解説と演習を実際に行っていただきます。また、国の補助事業である地域型住宅ブランド化事業では、本講習の修了者であることが応募要件の 1 つとなっています。特に、本講習を多くの本会会員に受講していただき住宅の省エネに取り組んでいただくため、受付先着 500 名の本会会員について、受講料を本会が補助し無料で受講していただく予定をしております。建築人 8 月号で詳細のご案内をしますのので、お早めにお申し込みください。

社会貢献委員会

「鑑定業務支援分科会」の活動

本年度新たに設置した「鑑定業務支援分科会」では活動の目標として、①紛争となる建築をなくすこと、②「紛争」に対して適切な「判断（鑑定）」ができること、③裁判所や審査会などの公の場で適切かつ公平な一定の判断基準を示せること、④紛争当事者になったときに「建築士」が身を守るすべを持つことを掲げ、今後これらの目標達成に向け具体的な活動を展開していきます。今期の活動としては、弁護士会をはじめとした諸団体や一般消費者が建築士会に求める役割についての意見を交換し、分科会の体制づくりや活動の参考とします。また、各団体や大阪府の建築紛争処理機関に派遣・推薦している本会会員の調停委員約 40 名に対する活動支援や、同様

の活動に取り組む建築士向けのセミナー、講習会、勉強会などを行う予定です。

社会貢献委員会

「大地震時の応急危険度判定」連絡訓練の予告

大地震の際、余震による 2 次被害を防止することを目的とした「被災建築物応急危険度判定」の本年度の連絡訓練を 8 月 27 日（木）に実施する予定です。訓練は、マグニチュード 8.7 の日本海沖連動地震が発生し、秋田県秋田市を中心とする沿岸地域ほかで被災したとの想定で実施します。今回は大阪だけでなく、全国被災建築物応急危険度判定協議会が中心となり、国土交通省、各地方整備局、全国の都道府県が参加して全国規模で実施されます。訓練当日は、被災想定県の秋田県から・都道府県を通じて、全国の判定士に応援要請があり、応援が可能な判定士数を報告することになります。本会の判定士の皆様には、詳細が決まりましたら事前に連絡しますので、訓練にご協力いただきますようお願いいたします。

日本建築士会連合会

日本建築士会連合会通常総会の開催

6月12日に日本建築士会連合会の通常総会が東京・建築会館ホールで開催されました。連合会は全国都道府県の建築士会が会員ですので、総会には全国の会長が揃います。今回の議長は本会の岡本会長が務められ、総会の進行が滞ることなく、予定の議案も原案通り承認されました。連合会は本会と同じく公益社団法人であり、支出合計に対する公益事業支出で算出する昨年度の公益目的事業比率は 81.8%と高い割合となっています。この数字は法人が公益事業を如何に推進しているかの目安になるもので、公益社団法人の要件として 50%以上が求められ、本会の公益目的事業比率は 84.6%です。なお、連合会の総会報告は秋頃の会報誌「建築士」に掲載されます。

横文彦氏記念講演会



＜横 文彦氏＞

2015年で事務所設立50年を迎えられ、プリツカー賞など多数の内外の建築賞等を受章されている横文彦氏をお招きして「未来へのメッセージ」というテーマで、これまでの作品や、ニューヨーク「4WTC」など最近のプロジェクトの紹介と、それぞれの作品に込めた思いを語っていただきました。

横氏の大阪での講演会は久しぶりの開催となり、定員の250名が満席となる盛況ぶりでした。なお、本講演会の概要につきましては、本会の柳川名誉会長が本誌トピックス欄に著しておりますのでご覧ください。

懇親会

記念講演会を終えられた横文彦氏にもご参加いただき、釜山広域市建築士会や在阪友好団体の諸代表の方々も交えて、個人会員や賛助会員の交流会として和やかなひと時を過ごしました。

釜山広域市建築士会との交流懇親会

総会に合わせて、釜山広域市建築士会の李萬熙会長をはじめ国際委員等、全10名の方々を大阪にお招きしました。5月27日に東大寺や春日大社、奈良市街地を視察し、28日には神戸の異人館通りを中心とした歴史的建築群や、兵庫県立美術館など多数の安藤忠雄氏の作品を視察していただきました。そして、総会の式典・表彰式にご出席いただいた後、懇親会を開催し、本会の正副会長をはじめ、国際分科会担当理事・委員も参加して、韓国の方々との交流を深め、29日に関空より帰路につかれました。

○第3号議案（平成27年度役員選任）理事の再任・就任25名及び監事の就任1名の役員を選任して承認されました。これにより、平成27年度は理事43名、監事2名の役員構成となりました。

理事会

総会において平成27年度の理事及び監事が選任されたことに伴い、会長他の役職者の選任が行われました。岡本森廣氏の再任が決議され、公益社団法人移行後2期目の会長として選定されました。副会長には、上田茂久氏、濱田徹氏、田中義久氏に加えて、中嶋節子氏（京都大学教授）が本会史上初の女性副会長就任となりました。なお、中伊佐男氏は、平成19年度から4期の副会長の任期を満了して退任されました。

式典・表彰式



＜大阪府・堤部長＞



＜大阪市・川田局長＞

最初に、大阪府の堤住宅まちづくり部長、大阪市の川田都市計画局長、来年で交流30周年を迎える釜山広域市建築士会の李萬熙会長にご来賓挨拶を賜りました。表彰式に先立ち、岡本森廣会長の黄綬褒章、山本尚子理事の大阪府知事表彰の受章をそれぞれお祝い申し上げます。会員表彰は、名誉会員表彰に釜山の李萬熙会長と李成雨前会長、本会会員より5名の方々を受章されました。在籍25年を迎えられた永年会員表彰は76名の方々を受章されました。第7回建築人賞は建築人賞2点、建築人奨励賞2点を表彰し、審査委員長の古谷誠章氏からいただいた審査講評のビデオレターを放映しました。

定時総会

日程 平成27年
5月28日（木）
会場 ホテル大阪ベイタワー
出席 1,008名
出席 135名
委任状出席 873名



＜岡本会長＞

※定時総会は、総正会員数2,674名に対して1/3以上となる1,008名の出席で、定款第17条に照らして成立しました。

○第1号議案（平成26年度事業報告）公益社団法人としての公益目的事業の3区分、収益事業、その他事業について、本会の組織構成である運営・研修・事業・建築表彰・建築情報・社会貢献の常設委員会ごとの活動に区分し、それぞれ詳細に報告して承認されました。

○第2号議案（平成26年度財務諸表等）貸借対照表、正味財産増減計算書等の財務諸表に照らして、収支項目の推移について前年度と比較して説明を行いました。前年度から増収になった主な項目は、収入では、耐震診断評価業務1100万円、建築行政等受託事業1000万円、寄附金570万円です。減収項目は耐震診断講習の制度変更による講習減400万円、会費の減少280万円です。支出の増加は、退職給付引当金の積み増し1000万円、耐震評価業務や受託事業の増加に伴う諸謝金1300万円、消費税率アップに伴う租税公課200万円となっています。支出の減少は、人件費250万円、耐震講習テキスト代金の減少による図書費が250万円、会員の減少による連合会への支払負担金100万円などです。以上の26年度決算により、本会の正味財産は22,042,306円となり、前年度より5,426,368円の増額となりました。また、公益社団法人の基準である公益目的事業の各区分の収支がすべてマイナスであること、公益目的事業の支出計が全支出計の1/2以上であり、公益法人の要件を満たしていることを報告して承認されました。

今春五月六日、場内の斜面にくまなく植えられたツツジの満開に合せ、毎年恒例で開催される一般公開の最終日に駆け込み、増田友也（一九一四～八一年）の設計した初期の代表作として知られる京都市東山区の京都市蹴上浄水場を初めて見学した。蹴上浄水場の歴史は古く、現地で配布された京都市水道局のパンフレットによれば、日本で最初の急速濾過式浄水場として、明治四五年（一九一二年）四月に完成し、琵琶湖疏水の水を京都市内に供給する施設として、一日六万八千m³の給水を開始したという。その後、人口増加による水需要の増加に対応するために、創設期の第一系統の改良と共に、一九六二年に新たに第二系統が新設された際、増補改良工事の一環として建設されたのが、この浄水場だった。

現地を訪れると、東山の急斜面に抱かれた十一万m²の広大な敷地の中央に、あたかもその斜面を堰き止めるような形で建設された、長さ一四〇m、奥行一二・五mの長大な本館が見えてくる。コンクリート打放しの柱と梁のフレームが全体を厳格に秩序だて、前面に設けられたバルコニーと頂部の庇が水平線を強調している。屋上テラスの屋根と水平の庇の下には、意図的に小梁の小口が露出され、立面にリズムカルな表情が与えられている。残念なことに、その後浄水処理の方法が変更された結果なのだろう。本館と共に直交して手前に建てられた平屋の操作廊とその両側の濾過池はすでに撤去されており、竣工時には存在したであろうと思われる敷地全体に広がる伸びやかな空間構成は大きく損なわれていた。

し、四年の歳月をかけて建設されている。本館と操作廊、濾過池を合わせると、延床面積は約九千m²になる。ほぼ同時期に設計が進められた南淡町庁舎（一九五七年）や尾道市庁舎（一九六〇年）など、いくつもの建物を完成させた増田にとって、文字通り最大規模となる建築だった。そして、この建物が評価と信頼を得たのだろう。京都市からは、続いて鳥羽下水処理場のポンプ室（一九六一年）や山ノ内浄水場（一九六六年）の設計が依頼されていく。

し、また浪漫主義的傾向のArchitectもあるのであろうし、建築という固定観念に保守的な人達もあろうし、懐疑的なGroupもあり得るであろう。けれども、これらのすべての陣営に属するArchitectのつくくるものに共通なことがらは、それらはいづれも、何らかの意味での、生活の場を具体的に実現している、ということであろう。もしこの通りであるとすれば、生活の場をつくる、ということにArchitect像を求めるのが、一番本源的であり、それだ

記憶の建築 松隈 洋

京都市蹴上浄水場 1962年 命の水をたたえる生活基盤施設



北側から見る本館全景



2階ホールの内観

それにしても、増田は浄水場という建築に何を求めたのだろうか。残念ながら、直接この建物に言及した文章はない。それでも、当時の増田が建築にどう向き合おうとしたのかをうかがい知ることのできる次のような同時期の文章が残されている。

けに、もっとも広い態度であろうといえよう。ところで、生活の場をつくる、ということとは、そこで行なわれるさまざまな生活、あるいはその生活を通じて人間を洞察し、理解し、またその人間とその生活の場との交渉のし方を識り、その場の空間的構成の技法や、その工学的、技術的解決をした上で、実際的にそれを施工していくことにはかならず、ArchitectはArchitectとして立っていくためには、これらの能力をもっていなければならないのであるが、そ

Architectは、これらの分析的な、同時に、総合的な能力をもつのみならず、そこに具体的に実現しようとする生活の場の物的形成の一切を、作図し指示して、それを誤りなくworker達に伝えなければならぬのである。〔「大学における建築教育の問題点」『建築と社会』一九六三年一月号〕

「われわれは過去に、非常に多くのArchitectureをもってゐる。（中略）Architect像もまた多様であると考えらるる―古典主義的傾向のArchitectもあろう

ここに記されているのは、建築にとって「本源的」なのは、それが「生活の場をつくる」という性質にある、という確信だ。また、その性質に迫るためには、生活を通じて人間を洞察し、理解し、生活の場との交渉の仕方を把握した上で、空間的構成の技法を見つけ出し、それを確かな形で実現できる工学と技術の知識が必要だと指摘している。おそらく、この文章から読み取れる建築をつくることへの畏怖心と覚悟を増田にもたらしたのもこそ、人間の命を支える水を供給する生活基盤施設としての蹴上浄水場だったのだと思う。その姿は、今もなお、建築とは何かを問いかけている。

松隈 洋 京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

匠の巧

サンゴバン・ハングラス・ジャパン株式会社
株式会社CLAP



1枚のガラスの中を3つのゾーンに分け、ゾーン毎に透過率を制御

頭脳を持った次世代ガラス

文 測 側 晋



太陽発電とワイヤレス制御を組み合わせた製品は設備配線が不要

京都左京区北白川に二〇一四年二月、フランス国立極東学院が竣工した。銀閣寺から程近く、白川通りを少し西に入った住宅地の中に建つこの建物は、周囲に住宅が隣接し、道路面となる西側からのみ採光が可能となつている。フランス政府の監督下にある東洋学の研究施設であるこの学院は、研究機関の象徴とも言える書籍が建物の外側から見えるデザインを希望し、設計を手がけた株式会社みかんぐみのマニエル・タルディッツ氏は、建物正面の西側ファサードを全面ガラスで覆うプランを採用した。

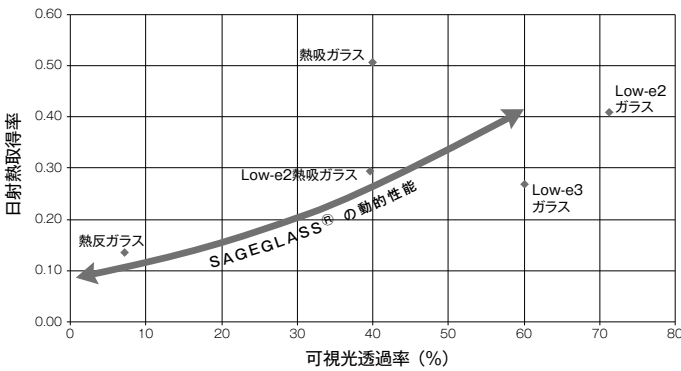
ここで大きな問題となつたのが、書籍の西日対策で、その解決にあつたのは、LOW-Eガラスとルーバー、ブラインドなどの組み合わせも可能ではあつたが、設備が増える

事で使用者に操作の負担が増える上に、デザイン面での美観が損なわれるという観点から、日本では初めてエレクトロロミック技術を用いたガラス（以下ECガラス）であるSage Glass（セージガラス、以下Sage）が採用された。この聞きなれないECガラスとは何か。それはこれまでのガラスが静的で、その性能が固定化され変化しないのに対し、ECガラスは電気制御で電子的にその性能を動的に変化させる事が出来るガラスだ。これまでの静的な性能のガラスでは、この建物のように、ファサード面をガラスにする事で得られる建物の内と外との視覚的なつながりは損ないたくない。しかし、西日などにより多くの熱やグレアが取り込まれてしまう事は避けたいというような、相反

する目的を両立させることは不可能だった。この不可能を、その時々状況によってガラス自体が動的に変化することで可能にしたのがECガラスであり、サンゴバンの製品Sageだ。サンゴバンは二六六五年にフランスで設立された王立鏡面ガラス製作所を起源とし、三五〇年の歴史を持つ世界最大の建材企業である。六四カ国で事業展開し従業員数は二八万人という規模を誇ると同時に、世界で最も革新的な企業二〇〇に四年連続で選ばれている。また、ベルサイユ宮殿の鏡の間を手がけたのも同社であり、その歴史と先進性には驚きを隠せない。そのサンゴバンが長い歳月をかけ研究・開発を重ね、二〇〇三年に商品化されたのが、今回ご紹介する、Sageだ。

ECガラスで相反する価値を二つに

Sageを簡単に説明する。Sageはサンゴバン・グループの製造する建築用ガラスで、特殊コーティングが施されたペアガラスと屋外に設置されたセンサーによって、ガラスの可視光透過率を1%〜60%に自動で調整できる超高機能ガラスだ。エレクトロロミックという技術に屋外のセンサーを用いることにより、自動的に日射しの強い環境下では透過率を下げるようガラスを変色し日射しを遮り、そうでないときは自然光を存分に取り入れようと60%という高い透過率の変動が、ガラスファサードやトップライトで可能となる。夏は暑い日射しを遮り、冬は西日の眩しさを遮れる超高機能ガラスとして、建物の省エネ基準が高まる昨今、市



SageGlassの動的性能と従来の窓ガラスとの比較

かな居住性を求めることが可能になると言えるだろう。それだけでは無い、それがその時々刻々と変化するこの調整機能によって、暖房シーズンにはパッシブソーラーで熱を集め、冷房シーズンには冷房負荷を最小限に抑え、さらには日光を上手く使う事によって照明などのエネルギー消費を抑える事（デイトライト・ハーベスティング）が出来る。さらに、マニエルで透過率を変化させることができることも魅力である。まさに、あらゆる条件のもとでエネルギーを節約する事を可能にし、サステイナビリティの高い建築の設計を可能にしている。

Sageの様々な可能性

ECガラスの特性と可能性についてはこれまで見てきたところだが、サンゴバンのSageだから出来ることの幾つかを紹介したい。その一つが、ゾーニングで1524×3048mmまでのサイズに対応するSageを最大三つの着色ゾーンに分割出来、それぞれ別々に着色し透過率を調整する事が出来るという事で、これによって、太陽の位置によって着色するゾーンを変えたり、視線の位置に透明なゾーンを設定したりと、居住者の要望と、その地域の特性に合わせた独自のパターンのプログラムが設定出来、センサーによって管理運用できる。この機能が無ければ、ECガラスもその性能を生かす出来ないのだが、3分割出来るのはSageだけである。又、Sageが新たなプランを考案する際の大きな力になるのはこれまで見てきたところではあるが、これは何も新しいプランにだけ効果を発揮するのではなく、既存のガラスをSageに置き換える事で、様々な問題を解決できる。その場合、配

人間の本性が求めるもの
いま、試みに、幸せをイメージして豊かな空間を思い浮かべれば、多くの人は陽光が満ち溢れた明るい部屋をイメージするのではないだろうか。それは、人がその誕生から長きにわたり、太陽の光に全てを依存して生きてきたこと、その記憶は現在も人の中にDNAとして深く刻み込まれ、今も我々の無意識の行動に影響を与え続けているのだということからも伺い知ることが出来る。そんな事を考えると自然光を求め取り入れようとするのは人間の本能だとも感じられ、人の営みと太陽の光は分かち難く密接に結びついている事を今更ながらに知る。建築のサステイナビリティ性の側面から見ても、自然光を取り入れ、照明などのエネルギー使用量を抑える事がとても

大切なのは今更言うまでも無い事だが、それ以前に自然光を浴びる事自体が人にとつての喜びであるという事を忘れてはならないだろう。その意味でこれまでの静的ガラスでは実現出来なかった、省エネ性と快適性の両立を、ガラスに動的性能を与える事で可能にしたSageによるガラスの進化は、人間の本性が求める欲びに満ちた理想の空間創りをもたらしてくれると感じた今回の取材であった。

(お問い合わせ窓口 代理店)

株式会社 CLAP
クラブ

鋼製建具・内外装パネル
金物・硝子工事
設計・製作・施工

532-0011
大阪市淀川区西中島5丁目14番10号
サムティ新大阪フロントビル4F
Tel:06-6307-2325
Fax:06-6307-2326

SAINT-GOBAIN
サンゴバン・ハングラス・ジャパン株式会社
〒102-0083
東京都千代田区麹町3-7 サンゴバンビル

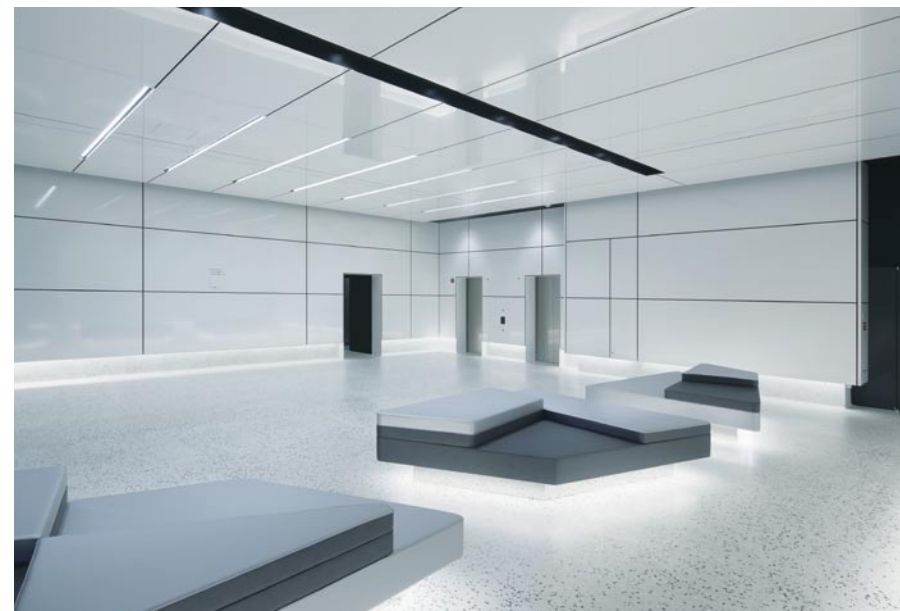
www.saint-gobain.co.jp
www.sageglass.com

SageGlass



武庫川にキャンパスをもつ兵庫医科大学の健診部門を、更に充実すべく開設したクリニックセンターである。予約による人間ドックと、地域に密着した内科外来クリニックを併せもつ施設となっている。2つの機能を明解に分けつつ、先端医療機器、バックゾーンの共用利用に配慮したゾーニングとした。外観は、2つの施設構成と、外窓の採れない放射線エリアとを素直に表出させたデザインである。3階に事務機能を集約し、予備換気口を十分に用意することで、今後の診察機能拡張に対応できる計画とした。この施設が、大学病院との緊密な連携メリットを活かして、早期発見・早期治療の一役を担っていくと確信している。(岡 広)

所在地：兵庫県西宮市
用途：診療所
竣工：2015.01
構造規模：RC造3階
敷地面積：965.32㎡
建築面積：595.79㎡
延床面積：1,565.23㎡
写真：SS大阪



遠藤照明のヘッドクォータービル。ファサードが織りなす「光のミルフィーユ」は、まちを柔らかく照らし出し建築を大胆に浮かび上がらせる装置。照明器具メーカーにしか表現できない社会性と象徴性を実現した。ここで知的生産をするワーカーたちが光の重層に溶け込みファサードにアクティブな活動を投影する「人と建築と光が融合する建築」を目指した。(塚島 健/日建設計)

カーテンウォールにはLED アッパーライトを埋め込み、中央可変制御によりさまざまな夜の表情を創りだす。簡易エアフロー、その他各所の照明にはセンサーやタッチパネルによる調光システム(一部、調光調色)を導入し、状況に応じた光の演出と省エネルギー化を実現している。(関山泰忠/大成建設)

所在地：大阪市中央区
用途：事務所
竣工：2015.03
構造規模：鉄骨造
敷地面積：595.32㎡
建築面積：497.15㎡
延床面積：4,533.63㎡
写真：岡本公二



「光のエンベロープ」
カフェや雑貨店が集まり、若者で賑わう大阪市堀江の四ツ橋筋に面して建つ。西日をまともに受けるロケーションを逆手にとり、自然の光を、ファサードでの応答できれいに街に投げ返そうと考えた。

マテリアルとして比率の異なる3種類のカーブを持つアルミ型押し材を開発し、ランダムに組合せることで、歩行者の視線の移動・太陽の運行・空模様により刻々と変化する光を身に纏う。音楽の特性である時間的変化・ハーモニー・ゆらぎを、外装材に反射する光で奏で、全方位に光を放つ。

(森田昌宏、加藤慎悟)

所在地：大阪市西区
用途：学習塾、他
竣工：2015.03
構造規模：鉄骨造
地上7階
塔屋1階
敷地面積：775.78㎡
建築面積：704.98㎡
延床面積：5,020.47㎡
写真：母倉知樹

第7回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会



審査委員長 古谷誠章

1955年 東京都生まれ
 1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
 1980年 早稲田大学大学院修了
 1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
 マリオ・ボッタ事務所在籍
 1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ(現NASCA)共同設立
 1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
 1997年～ 早稲田大学教授

審査総評

建築人賞審査委員長 古谷誠章

昨年引き続き、建築人賞の審査員を引き受けました。私にとって二度目となった今回は、応募してくださる皆さんが互いに出会い、私も含めて意見交換のできる機会になればと考え、一次審査でポスターセッションとプレゼンテーションをさせていただきました。

結果は、単に誌面で拝見しているのではわからない設計の意図や経緯が、より具体的に理解することができました。ご協力に感謝します。毎号の誌面では紙幅も限られ、どうしても写真が主体となって図面等が読み込めなかったのと、何よりも設計者自身の言葉で直に説明を聞くことができたのがよかったと思います。新たに制作していただいたポスターにも、もう少し設計の趣旨や図面的な情報、立地環境のわかるものなどが含まれていると、さらによかったですね。

問題はそこからどのように作品を選ぶかですが、何しろたった一人で審査をするので、とても客観的というわけに行かなかったことをお許しください。手がかりとしたのは、純粹な建築作品としての一般的な質の高さに加えて、大阪ないしは関西の文化的土壌にいか根差しているかについても、



建築人賞記念盾「未来へ！」
 グラスアーティスト 三浦啓子作

建築人賞 三井ガーデンホテル京都新町別邸



【選評】
 町屋の残る京都の中心部での、ホテルの新築計画。この地区での歴史景観の大切さは言うまでもありませんが、敷地の一角に保存された蔵、再生された通りに面する町屋、重層するシティホテルの外観が、見事に融和する様は卓抜なものがありません。ここに投宿し、また食事を楽しむゲストにとっては、あたかもひと時の街に住みついたかのような雰囲気味わえる、質の高いホスピタリティが感じられます。市街の中にある空間があり、客室にはゆとりある空間があり、中庭が奏功して動線部も明るく気持ちの良いものとなっています。蔵を改修した個室を含むダイニングの空間も、古い町の中に新しい空間を兼ね備え、また館内の随所に見られる個性的な芸術家、デザイナーたちの協奏もお互いを引き立て合っている、とても魅力的です。



建築人2014年7月号掲載

建築主/株大丸松坂屋百貨店
 基本構想/アーキテクツオフィス
 設計/株竹中工務店
 内装: 竹中工務店+三井デザインテック
 レストラン: 永山祐子建築設計
 庭園: 荻野寿也景觀設計
 施工/株竹中工務店
 建築位置/京都市中京区
 竣工年月/2014年2月
 用途/ホテル
 構造・規模/RC造 地下1階 地上5階
 敷地面積/1,705.29㎡
 建築面積/1,200.11㎡
 延床面積/5,528.31㎡
 写真/古川泰造、ナカサ&パートナーズ

私に可能な限り想像することでした。二日間という限られた日程での上限を考えて、住宅と一般のそれぞれの部門から四作品ずつを現地審査対象に選ぶこととしました。
 三月三十一日から四月一日に、京都、大阪から、東は滋賀県甲賀市、西は兵庫県多可町に至る計八作品を見てまわりました。作品は立地も内容も文字通り多様性に富み、それぞれにふさわしい設計者を得て、特に住宅作品では依頼主のその土地に愛着を持った暮らしを実現するために、惜しみなく力が注がれた様子が伺えました。

個別の印象は各評に譲りますが、これらの作品を巡っている内に、私はつくづく関西に長らく積み重ねられた、成熟した大人の建築の文化とでも呼ぶべきものを実感しました。陽気で明るく、時にアジア的な活気を感じる関西の雰囲気の中に、施主と建築家がお互いをじっくり育て合うような、独特の雰囲気を感じます。それは、誰でもが登場して競い合う、のど自慢やコンテストのようなものとは違う、一朝一夕には飛び込むことのできない稽古場のような雰囲気といった方がいいでしょうか。層の厚みのある、とても不思議な魅力です。簡単にはその核心に迫れそうもありませんが、しばらくの間、よろしくおつきあいをお願いしたいと思います。

建築人賞 八千代の家



【選評】
 のどかな農地に囲まれた一軒家の風情ですが、実は南面に母屋、北側には隣地の擁壁など、必ずしも開放的とはばかりは行かない敷地に建っています。四つの口の字型の囲いで作り出す内外空間の構成は秀逸で、単純な平面操作でありながら、豊かな内部空間を生み出しています。四つの囲いのその中ほどに位置するものが、普通ならさしずめ共通のリビングとでもなるところでしょうが、そこには書架とピアノが主役に座り、一家の中心となっていてところがユニークでした。外部の庭を囲む壁が、目線の高さは塞ぎながら、しかし室内から遠景の山の木立を眺められるという、抽象的で不思議な眺望をもたらしています。壁や開口で切り取られた周辺の風景が、絵画や掛軸のように見えるのも新鮮で、建築作品として大変魅力的でした。



建築人2014年8月号掲載

設計/川添純一郎建築設計事務所
 施工/南ビームス コンストラクション
 建築位置/兵庫県多可郡
 竣工年月/2013年12月
 用途/専用住宅
 構造・規模/木造 平屋建
 敷地面積/449.98㎡
 延床面積/108.59㎡
 写真/Stirling Elmdorf

●目的
 公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇一五年四月には第六一〇号を数えました。本会会員である建築士にとって重要な情報提供を行うとともに、作品発表の機会を設け、建築技術の普及や建築士の相互研鑽に寄与することを目指しています。
 「建築人賞」は、「建築人」の GALLERY に掲載された作品の中から機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰し、建築技術の進展、建築文化の向上に資するとともに、「建築人」への作品掲載の意欲をさらに高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過
 審査は、公平性を重視するため、関西以外で活躍する建築関係者、学識経験者等をお願いしています。前回(第六回)からは早稲田大学教授古谷誠章氏を審査委員長としてお迎えしました。今回は二〇一四年に掲載された作品三十七点が対象となりましたが、今回はじめての試みとして、公開一次審査を行いました。一次審査は、二月二十一日に開催され、設計者のプレゼンテーション、審査員による質疑等を行い、その場で八点が審査を通過しました。その後三月三十一日、四月一日の二日間、現地審査を行い、最終的に、建築人賞二点、建築人賞奨励賞二点、佳作四点が選出されました。
 入賞作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。
 建築情報委員会委員長 米井 寛



【選評】
大阪の密集市街地に建つ四階建ての保育園。隣家とも接近せざるを得ない厳しい敷地の制約の中で、あえて建物を南側に寄せ、北の前面道路側に園庭を残すことで、隣地との干渉を避けています。北側の庭といつても、道路に接するために十分な開放感があり、逆に、安定した採光も得られていて効果的でした。また、屋内の二箇所の縦動線となる階段室を活かして、重層の避けられない保育室群を視覚的に有機的につなぐ試みが、功を奏しています。廊下や扉、開口部など、随所にきめ細かい配慮がなされ、コンペで選ばれた設計者が、引き続き同じ依頼主の別の施設の依頼をされていることにも、施主からの大きな信頼が得られていることが表れています。



建築人2014年1月号掲載

建築主／社会福祉法人 水仙福祉会
設計／井上久美設計室
施工／日本建設株

建築位置／大阪市東淀川区
竣工年月／2013年10月
用途／保育所
構造・規模／RC造 地上4階
敷地面積／893.93㎡
建築面積／481.75㎡
延床面積／1,444.37㎡
写真／雷田英次

建築人賞佳作 かもしか荘



【選評】
豊かな自然と、隣接するを神社の景観を最大限に生かした、居心地のよい宿泊施設が実現しました。個室から眺める眺望は美しく、川辺で過ごす寛いだ時間とともに、都会を離れて休暇を過ごすにはこの上ない場所となっています。アプローチから見る落ちついた佇まいが秀逸です。

建築主／甲賀市
設計監理／株徳岡設計
建築施工／株奥田工務店

建築位置／滋賀県甲賀市
竣工年月／2013年3月
用途／宿泊施設
構造・規模／S造 地上2階
敷地面積／5,066.62㎡
建築面積／923.48㎡
延床面積／1,495.39㎡
写真／松村芳治

建築人賞佳作 外市秀裳苑ビル



【選評】
四条通りに面する呉服問屋の本社ビル、下層階を賃貸商業空間としています。何となくでも全館の外周を取り巻くパンチング・スクリーンが圧巻で、室内への過度な日光の侵入を緩衝するとともに、外観が昼景から夕景、さらに夜景へと移り変わる様は、通りに美しい華やぎを与えていて、和装呉服業の面目をいかに発揮しています。

建築主／外市株
設計・施工／株竹中工務店

建築位置／京都市下京区
竣工年月／2014年4月
用途／物販店舗
構造・規模／S造
地下2階 地上7階
敷地面積／1,378.97㎡
建築面積／1,105.29㎡
延床面積／7,865.80㎡
写真／母倉知樹



【選評】
京都の北部、松ヶ崎東山の山裾に接する里に建つ、毎年五山の「法」の字の点火に向向くという夫妻が暮らす、築百年以上の蔵と古い納屋を改修した住まい。改修前に納屋部分はすでに借家として使用しましたが、今回の改修によって、それぞれの元来の空間が蘇り、同時にその内部に断熱等の住空間としての改良が施されています。住みながら試行錯誤して作り込まれていく様々な造作は、あたたかでも少年たちが空家に入り込んで小屋作りをしているかのような楽しさを感じられます。しかし内部では、混在する新旧の要素が巧まずして生み出す調和が、「少年」というよりは、年季の入った大人が童心に帰ったというべき、空間の「妙」を感じさせるものでした。無論、この改修によって残された外観が、街並み保全に寄与した功績は、言うまでもなく計り知れません。



建築人2014年6月号掲載

設計／吉村篤一(株)建築環境研究所
施工／株片山工務店

建築位置／京都市左京区
竣工年月／2013年5月
用途／専用住宅
構造・規模／木造
敷地面積／317.30㎡
建築面積／55.85㎡
延床面積／75.63㎡
写真／大島勝寛

建築人賞佳作 夙川の家



【選評】
この地を拠点とする設計者が、いわばタウンアーキテクトとしてクライアントに親しまれ、信頼されている様子が感じられる住宅です。高低差のある敷地の地形を活かし、地下階とは感じさせないアプローチ空間と、その上に確保された眺めのよいプライベートルームな空間を巧みに生み出しています。

設計／株マニエラ建築設計事務所
施工／株笠谷工務店

建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2011年11月
用途／専用住宅
構造・規模／地下RC造1階
地上木造2階
構造設計／土屋設計
敷地面積／198.76㎡
建築面積／79.49㎡
延床面積／229.56㎡
写真／松村芳治

建築人賞佳作 野生と和の家



【選評】
神戸市御影の、特徴的な斜面地に立つ住宅。斜面の上下の隣地の現状と協調して、上段の隣家への影響を最小化し、下方の眺望を最大限に取り入れる断面的な工夫がなされており、非常に快適な居住空間が実現しています。施主が経験豊富な設計者と出会い、楽しく見事な共同作業を進めた様子が、そこここにうかがえます。

設計／木原千利設計工房株
施工／株エス・エー・シー

建築位置／兵庫県神戸市
竣工年月／2013年10月
用途／専用住宅
構造・規模／木造2階
一部RC造
敷地面積／339.17㎡
建築面積／153.48㎡
延床面積／246.89㎡
写真／松本憲洋

建築人賞 受賞作

第1回建築人賞（2009年）

伊根町コミュニティセンター
建築主／伊根町 設計／浦辺設計 施工／大林・金下共同企業体
日亜化学工業(株)本社厚生棟
建築主／日亜化学工業株式会社 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
加美の山荘
設計／井上久実設計室 施工／あかい工房
Wajima 十番丁
建築主／和島興産株式会社 設計／日建設計 施工／大林組・小池組
共同企業体
株式会社虎屋 京都工場
建築主／株式会社虎屋 設計／KAJIMA DESIGN 施工／鹿島建設

第2回建築人賞（2010年）

□建築人賞
清荒神清澄寺史料館
建築主／宗教法人 清荒神清澄寺 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
小楯のある家
設計／マニエラ建築設計事務所 施工／西友建設

□建築人賞奨励賞
高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be
建築主／社会福祉法人 北摂杉の子会 設計／二井清治建築研究所
施工／安部工務店
昭和町の家
設計／藤原・室 建築設計事務所 施工／大種工務店

第3回建築人賞（2011年）

□建築人賞
アシックス本社東館
建築主／株式会社アシックス 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
ARK
建築主／楠戸芳弘 設計／岸上勝彦＋明建築工作舎 施工／城善建設

□建築人賞奨励賞
千里中央プライムステージ
建築主／新星和不動産株式会社・三洋ホームズ株式会社
設計／KAJIMA DESIGN 施工／鹿島建設
森のアトリエ
設計／コンパス建築工房 施工／伊田工務店

第4回建築人賞（2012年）

□建築人賞
神戸国際中学校・高等学校河野記念アルモニホール
建築主／学校法人 睦学園 設計／竹中工務店 施工／竹中工務店
苦楽園の家
建築主／松井龍 設計／二宮俊一郎＋諸留智子一級建築士事務所エヌ
アルエム 施工／創建

□建築人賞奨励賞
児童養護施設 三ヶ山学園
建築主／社会福祉法人 三ヶ山学園 設計／野村充建築設計事務所
施工／東亜建設工業
西宮神社 祈祷殿
建築主／宗教法人 西宮神社 設計／大林組 大阪本店一級建築士事務所
施工／大林組
おい町里山文化交流センター
建築主／おい町 設計／徳岡設計 施工／こんどう・日登建設共同企業体
路地のある寺内町の家
設計／NEO GEO 横関正人＋三木万貴子 施工／山本建築

第5回建築人賞（2013年）

□建築人賞
大正製薬株式会社 関西支店
建築主／大正製薬株式会社 設計者／竹中工務店 施工者／竹中工務店
榆の木テラス
設計者／石井良平建築研究所 施工者／林建設

□建築人賞奨励賞
株式会社小松製作所 大阪工場 大阪テクニカルセンタ
建築主／株式会社 小松製作所 設計者／KAJIMA DESIGN
施工者／鹿島・前田建設工業・間組共同企業体
柵木の家
設計者／木原千利設計工房 施工者／SEEDS・CASA

第6回建築人賞（2014年）

□建築人賞
日本圧着端子製造株式会社
建築主／日本圧着端子製造株式会社 設計者／ Atelier KISHISHITA +
Man*go design 施工者／鹿島建設 関西支店
今井町の家
設計者／NEO GEO 横関正人＋横関万貴子 施工者／岩鶴工務店

□建築人賞奨励賞
GLA 近畿会館
建築主／宗教法人 GLA 設計者／岸 和郎＋ K.ASSOCIATES /Architectes
施工者／藤木工務店 大阪本店
深谷山荘
設計者／マニエラ建築設計事務所 施工者／笠谷工務店

第7回建築人賞（2015年）

□建築人賞
三井ガーデンホテル京都新町 別邸
建築主／株式会社大丸松坂屋百貨店 基本構想者／アーキテクトオフィス
設計者／竹中工務店 内装：竹中工務店＋三井デザインテック
レストラン：永山祐子建築設計 庭園：荻野寿也景観設計
施工者／竹中工務店
八千代の家
設計者／川添純一郎建築設計事務所 施工者／ビームス コンストラクション

□建築人賞奨励賞
風の子保育園
建築主／社会福祉法人 水仙福祉会 設計者／井上久実設計室
施工者／日本建設
蔵の住まい
設計者／吉村篤一＋建築環境研究所 施工者／片山工務店

□建築人賞佳作

かもしか荘
建築主／甲賀市 設計者／徳岡設計 施工者／奥田工務店
外市秀薬苑ビル
建築主／外市株式会社 設計者／竹中工務店 施工者／竹中工務店
夙川の家
設計者／マニエラ建築設計事務所 施工者／笠谷工務店
野生と和の家
設計者／木原千利設計工房 施工者／エス・イー・シー

第7回建築人賞 審査風景



建築人賞審査委員長

第1回～第5回 審査委員長 石堂威（都市建築編集研究所代表）

略歴
1942年 台北市生まれ
1964年 早稲田大学第一理工学部建築学科卒業、
新建築社入社
1980年 『新建築』編集長（～91年）
1985年 『新建築住宅特集』創刊編集長（～88年）
1992年 エーディー・イー・エディタ・トーキョー入社、
『GA JAPAN』創刊編集長（～95年）
1996年 都市建築編集研究所設立、代表



第6回～ 審査委員長 古谷誠章（早稲田大学教授）

略歴
1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授



第7回建築人賞

第7回建築人賞の審査は、平成27年2月21日に本町・御堂
ビルのいちょうホールを会場として第一次審査（公開）を開催、
3月31日及び4月1日の2日間にわたり第二次審査（現地確認）
を実施しました。

今回の審査では、古谷誠章審査委員長からの提案をきっかけに、
第一次審査を公開としました。第一次審査では、応募作品全点に
ついて、ポスター展示、設計者による発表、審査委員長・設計者
間の質疑応答がなされました。発表3分、質疑応答2分という
限られた時間での審査ではありましたが、審査委員長と設計者との
丁寧なやりとり中にも、建築やまちに対する熱い思いを垣
間見ました。

運営に携わる建築士会のメンバーたちは、応募者全員の参加を
通して、建築人賞がより開かれた、魅力的な場となるように企図
しました。第一次審査の盛り上がりとその後の懇親会場での参加
者の方々から、少しはその思いが意義ある形で実現できたの
ではないかと感じました。

来年に開催される第8回建築人賞においても本年と同様の形
とし、建築人賞がより多くの方々への参加の場として、益々の発展
をめざして運営に取り組んでまいります。

建築人編集人一同

「住みやすさナンバーワン」のまちを目指してー景観・屋外広告物行政の取組ー

文 佐竹 真一

1 はじめに

高槻市は、大阪と京都の中間に位置し、北部を連なる北摂連山の山並み、山あいから市内を縦断して流れる芥川や南部の淀川など自然豊かな環境に囲まれ、史跡今城塚古墳をはじめとする三島古墳群や高槻城跡などの歴史遺産が数多くあります。中央部はJR二駅と阪急三駅を中心とした市街地で、市営バスが市内各地を結んでいることから交通利便性の非常に高い都市として知られています。人口は、近年三六万人弱で推移しており、平成二四年の住宅情報誌の調査で「住んでみてよかった街ランキング」の関西第一位に選ばれました。

今後、平成二八年春にはJR高槻駅に新快速専用ホームが整備され、平成二九年春には新名神高速道路高槻インターチェンジが開通される予定で、利便性の向上が大きい期待されるこれらの事業を本市は支援しています。また、中心市街地に近接した史跡安満遺跡を含む、その「帯約二〇・九ヘクタールの広大な敷地を「安満遺跡公園」として整備し、防災機能を備えた緑豊かな公園を目指す取組を平成三年の一次開園に向けて進めています。

このように、本市は、「住みやすさナンバーワン」のまちを目指した施策に積極的に取り組んでおり、本稿では、その一端を担う景観・屋外広告物行政の取組についてご紹介させていただきます。

5 屋外広告物適正化の取組

景観を構成する重要な要素の一つに、屋外広告物があります。屋外広告物は、情報の提供や賑わいの創出などの効用がある一方、無秩序に設置されると景観や安全が損なわれ、適正に管理されなければ事故に至る場合もあります。ここでは、平成二六年から二七年にかけて実施した屋外広告物適正化の二つの取組をご紹介します。

一つ目は、広告付きベンチへの取組です。前述のとおり、本市では市営バスを運行していますが、バス停付近の道路上に広告表示を目的としたベンチが法令に違反し設置されている事例が多数ありました。その中には、周囲の環境に調和しない派手な色彩のもの、老朽化し壊れているもの、広告表示のための過大な背もたれが耐風圧性に欠くと思われるものなどもあり、法令違反に加えて、景観と安全の両面から改善すべき課題となっていました。しかしながら、一方で乗客に利用されているものもあることや関係部局が複数に跨る



JR 高槻駅北東地区完成予想図

2 景観・屋外広告物行政の変遷

本市では、昭和四〇年代に大阪・京都のベッダタウンとして人口が急増しましたが、昭和五〇年代後半には人口急増期に失われたまちへの愛着や誇りといった市民意識を回復していくことが政策課題として認識されるようになりました。そこで、平成元年に「高槻市都市景観形成要綱」を制定し、景観に与える影響が大きい大規模建築物等について景観誘導を行うこととし、平成六年には「高槻市都市景観形成基本計画」を策定しました。

その後、平成一五年の中核市の移行に伴い、屋外広告物法に基づき、屋外広告物の許可や禁止区域を規定する「高槻市屋外広告物条例」を施行し、屋外広告物行政に主体的に取り組むこととしました。

また、平成一六年の景観法施行を受け、景観行政団体として、平成二二年に「高槻市景観条例」を制定し、あわせて法に基づき「高槻市景観計画」と条例に基づく「高槻市景観基本計画」を策定することで、それまで進めてきた景観誘導等の施策を法令に基づく枠組みとしました。これらにより高槻市全域を景観計画の区域とし、大規模建築物等を届出対象行為とした景観形成基準を定めています。この届出では、事業者から委任された建築設計者との協議が主となるため、建築設計者には本市の良好な景観形成の方針をご理解いただき、事業者との橋渡しになっ

ことから、課題認識はあるもののそのままにされてきました。

この課題に対して、屋外広告物を担当する都市づくり推進課が、平成二五年度の屋外広告物条例の改正を契機に、関係部局である市営バスの部局、道路管理の部局、環境美化の部局に呼びかけ、対策チームを設けました。このチームで、実態調査や法令解釈の整理を行ったうえで、屋外広告物法に基づく簡易除却を行うとともに、ベンチが必要とされるバス停には、道路法の手続きを経て、新たに市営バスのベンチを設置しました。この取組は、良好な景観の確保とともに、バリアフリーの観点からも市民生活に寄与するものとなり、手前味噌ですが、平成二七年四月にチームのメンバーが市長からの職員表彰を受けています。

二つ目は、建築に携わる方にもご協力いただきたい、屋外広告物デザインに係る取組です。良好な景観形成のためには、屋外広告物デザインを周囲の環境やまちなみに相応し



高槻ええとこクイズラリーの様子

ていただくことを願っています。

3 良好な景観形成を志向した開発事業

本市を代表する良好な景観形成を志向した事例に、官民一体となつて推進したJR高槻駅北東地区都市開発事業があります。平成一六年に都市再生緊急整備地域に指定された駅直近の約九三ヘクタールの工場跡地において、組合施行の土地区画整理事業による道路、公園、デッキなどの都市基盤整備と、民間事業者による施設建築物整備が行われたものです。大学、病院、住宅、商業施設等からなる新たなまち「MUSEたつき」が誕生し、平成二四年にまちびらきが行われました。

この事業では、都市基盤整備に際して、市民事業者学識経験者によるデザイン検討会議で、基本コンセプトと整備イメージが取りまとめられ、土地区画整理事業の基礎資料として活用されました。また、施設建築においては、事業者等で構成されたまちづくり協議会により、統一感のある景観形成を図るためのデザインガイドラインが取りまとめられ、これは後の施設建築設計に活用されています。

さらに、この地区が将来にわたつて良好な景観形成を維持していくことができるよう、まちづくり協議会が主体となり「景観重点地区指定に係る景観計画提案書」が提出された。この地区が将来にわたつて良好な景観形成を維持していくことができるよう、まちづくり協議会が主体となり「景観重点地区指定に係る景観計画提案書」が提出された。この地区が将来にわたつて良好な景観形成を維持していくことができるよう、まちづくり協議会が主体となり「景観重点地区指定に係る景観計画提案書」が提出された。

そこで、景観基本計画に示す景観形成の方針などを踏まえ、平成二七年三月に「高槻市屋外広告物ガイドライン」を策定しました。ガイドラインは、市内に設置される屋外広告物の計画・設計を行う際の解説書であるとともに、許可申請時の指導・助言の根拠として使われます。市民応募などによる市内の良好な屋外広告物事例を写真掲載するなどの工夫をし、具体的なデザインイメージを共有していただけるものになっています。市のホームページでもご覧いただくことができます。

また、一般に建築設計者と屋外広告物設計者は異なる場合が多いため、建築物の竣工後に、建築デザインに調和しない屋外広告物が後付けで設置されていたという苦い経験が



広告付きベンチの簡易除却

れ、これを受けて、本市は平成二三年にJR高槻駅北東地区を景観重点地区に指定しました。

4 景観に関する意識の醸成

このように、良好な景観形成には市民事業者行政の連携や協働が必要であることから、本市では景観に関する意識の醸成のため、市民の方々に地域への愛着や誇りを持つていただくよう、多様な取組を実施しています。

平成二二年から市内の景観スポットを再発見していただくため、エリアを設定し、マップを手に神社や古墳といった歴史遺産や趣のあるまちなみ、建築物などを巡り、その場所になんだクイズに挑戦していただく「高槻ええとこクイズラリー」を毎年開催しています。これまでに六回を重ねていますが、参加者からは「身近な地域が取り上げられ、誇らしい気持ちになりました。」「毎回参加する度に高槻に関する新しい発見があります。」「といった好評の声をいただいています。

また、平成二四年には市民からの投稿写真などをもとに編集し、市内の特徴的なエリアの景観を紹介したガイドブック「高槻ええとこBook」を発行し、本市の良好な景観の周知に努めています。有料刊行物(五〇〇円)として市役所の窓口のほか、観光案内所や書店でも販売しており、これまでに約四、八〇〇冊を、購入いただいています。

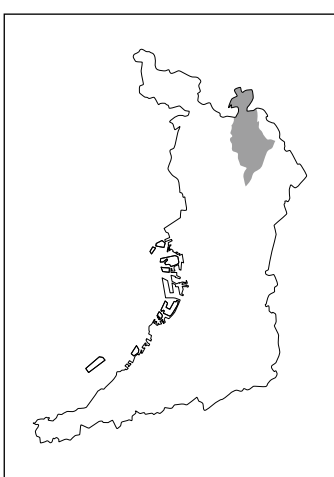
ある方もいらつしやるのではないのでしょうか。建築設計に携わる方には、このガイドラインを参考に、屋外広告物デザインも設計監理していただいたり、建築設計時に屋外広告物の設置を想定したデザインルールを作成していただければと思っています。

6 おわりに

景観は、地域における自然、歴史、文化や人々の営みが目に見える形で表れたものであり、良好な景観は、それを守り、育んできた地域の方々の愛着や誇りが礎となっています。私は、景観・屋外広告物行政の取組を通じて、良好な景観を保全し形成することは、その地域に「住みたい」「住み続けたい」という気持ちと同じ方向にあるものと確信しています。良好な景観形成に寄与する建築物に携われた方々に、深く敬意を表するとともに、引き続き景観・屋外広告物行政の取組へのご理解とご協力をお願いいたします。

佐竹 真一

高槻市都市創造部都市づくり推進課 主査
一九六八年 高槻市生まれ
一九九一年 立命館大学法学部卒
二〇一〇年 高槻市入庁
二〇一三年 四月より現職



6月号でご紹介した男山団地の団地再生計画に引き続き、今回は京都市営住宅での取り組みをご紹介します。京都市のプロポーザルによって選定された事業者や建築家、行政で構成される1000KITA実行委員会のメンバーである木村日出夫さんにご紹介いただきました。

「1000KITA PROJECT」について ～京都市営住宅を活用した新しいまちのかたち～

木村 日出夫

STUDIO RAKKORA 一級建築士事務所 代表
1980年 京都府生まれ。2006年 京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。2006～2011年 株式会社東畑建築事務所。
2014年 1000KITA 実行委員会設立。



改修後の1000KITA外観、前面道路は千本通



テナントの一例（左手前：フリースペース、奥：カフェ客席）

市営住宅を活用した実験的文化複合施設

二〇一四年、京都市は老朽化する「築只市営住宅」を再生するため、大規模改修や建替え、一部取壊しなどの整備を開始し、居住者の高齢化が進み空室が増える中で、暮らしやすい住環境を整備するとともに、民間の力を積極的に取り入れた新たな賑わいを生み出す施策を打ち出しました。

「築只市営住宅」は、京都市北区の千本北大路交差点の北西にあり、一九五八～八一年に建設された建物が一四棟、約二六五世帯が暮らしています。かつては一階が店舗として活用されていましたが、近年は空き店舗が目立ち地域力の低下が課題となっていました。また、千本北大路は多くのバスの乗り換え地点であり、周辺には大学、寺社仏閣、住宅地が位置しながらも、それぞれの関係が希薄なため、結節点となる場所が期待されていました。

二〇一九年度には、北大路通りと千本通りに面した市営住宅六棟の解体が予定されていますが、大通りに面し人通りが多いエリアは「賑わい施設検討区域」として指定され、周辺の保育園や児童館も取り込んだ大規模な再開発が検討されています。

「1000KITA PROJECT」は、解体予定の六棟を取り壊すまでの限られた期間、この「賑わい施設検討区域」において、既存の住棟を利用した実験的な地域再生の取り組みとして、今春から本格的に始動した事業です。地域や周辺の大学・企業等と共同で、未来へつながる地域の可能性を発見し、解体後の再開発においても持続可能な地域プロダクト

ラムを育てることで、長くこの場所に文化が根付き発展することを目的としています。

本プロジェクトでは、千本通に面した店舗付きの住棟の四つの空き店舗に対して、交流と生活をテーマとした「CAFE/カフェ」、自然と健康をテーマとした「KYOSITU/教室」、伝統・文化をテーマとした「SYOTEN/商店」、教育・子育てをテーマとした「HIROBA/広場」の四つの異なるテーマを設けて活用する方針を定めました。様々な異なる活動を受け入れる場とすることで、分野の垣根を超えた出会いの場を創出し、「人々が育む」文化複合施設となることを目指しました。

みんなでつくる「1000KITA」
このような目標をもって、二〇一四年の末から1000KITAの改修工事を行いました。みんなで作った1000KITAという思いから、近隣住民の方や大学生に参加を呼びかけ、「1000KITAをつくらう」という自由に参加できるワークショップ形式を採用しました。また工事中も、撤去完了時や一部完成時など、段階的に区切りを設けてイベントを開催することで、改装中の内部の様子を見てもらい「工事の見える化」を心掛けました。これにより、様々な方に期待感や親近感を抱いてもらえたのではないかと思います。

既存建物の魅力を活かした改修

店舗部分の改修は、地域再生というコンセプトを踏まえて、地域の人が見慣れている既存建物にはほぼ手を加えずに再建すること、さらに繋がりや輪を広げる試みです。地域と関連したイベントの開催や、色々なジャンルのゲストを招くことにより、より多くの人を巻き込みながら、出店者はもちろん、お祭りの参加者にも、地域の多様性や関係性に触れてもらうことで、地域の価値の発見や、地域資源の創出について考えてもらいたいという狙いがあります。

地域再生プロジェクトのこれから

このようなひとつひとつの積み重ねで、1000KITAが地域再生の契機となり、様々な人に1000KITAを訪れてもらい、地域との関係性が深まってきたことには嬉しさを感じますが、一方で、事業を通して感じるのは、地域と協働で行うまちづくりや地域再生と

整備し、よくある店舗リニューアルとは異なる印象とすることで、地域に新たな価値観を提示できるのではないかと考えました。

外観については、通りに暗い印象を与えていたテントを刷新し、空き店舗のファサードとなる建具の入替えを行いました。シャッター街に雑然とかかっていた老朽化したテントを撤去し、統一された真っ白のテントに取替えることにより、まちの印象が明るくなり、千本北大路の交差点に対するランドマーク性を付加することが出来たのではないかと思います。また建具については、施設の透明性や公共性を意図し、シンブルな木の無垢材の框戸とすることで、運営者の顔が見える、親しみやすい印象としています。

内部については、解体工事によって露わになった建設当時の杉板型枠によるコンクリートの表情を活かし、新たに付け加える部分については、木質の温かみのある内装とすることで、既存建物のもつ建築的な面白さと、地域の施設として誰もが利用しやすい雰囲気が感じることのできる計画としました。露出したコンクリート躯体に木工事を加えた内装とすることで、訪れた人に「ここはなんだろう?」「何ができそう?」「わたしもここで何かをやってみたい」と感じてもらえるような、誰のものでもない余白の感じられる雰囲気や空間の側からもアプローチ出来たのではないかと思います。

より高い公共性を得るために

店舗に入居する各テナントを公募する際には、実現可能性や前述した四つのテーマに即しているか等を基準に選定しました。また、より高い公共性を確保す

いったプロジェクトに資金を提供する仕組みづくりの必要性です。地域の活性化のためには、大きな建物を建設する時代から、地域資源を生かした新しい発想のプロジェクトを企画・実践していく時代が求められています。地域の核となる大きな公共施設を建設するよりも、点在する空き家などを活用した公共施設の在り方を運営・管理等も含めて提案し、地域の人々を巻き込みながら実践することで、まちの潜在力を生かした本当の意味での地域コミュニティの再生となるのではないかと、ということ。これらの成果に対して対価が支払われる明確な仕組みができれば、まちはもっと健全な姿に変容するのではないのでしょうか。



センキタフェスタで賑わう通り



既存店舗の解体後に行ったワークショップイベント

暑中見舞 2015

建築設計事務所

暑中お見舞申し上げます

宇澤 善一郎

ア ト リ エ ・ U
和泉市池田下町 1 6 9 9

人、社会、地球環境との共生

岩永 裕人

株式会社 アール・アイ・エー
大阪市北区堂山町 1-5
(三共梅田ビル)

金峰 鐘大

株式会社 I A O 竹田設計
大阪市西区西本町 1-4-1

暑中見舞 2015

大阪府建築士会役員

見える社会貢献活動へ

宮崎 八郎

宮崎建築設計事務所
大阪市中央区西心斎橋 1-1-11
(心斎橋西ビル 8F)

柳川 陽文

株式会社 小河建築設計事務所
大阪市中央区博労町 1-7-16
(CSTビル)

岡本 森廣

全日本コンサルタント株式会社
大阪市浪速区港町 1-4-38

希望は星に、足は大地に

瀬尾 忠治

株式会社 阿波設計事務所
大阪市浪速区元町 2-2-12

小林 務

株式会社 石本建築事務所大阪支所
大阪市中央区南本町 2-6-12
(サンマリオンNBFタワー)

松村 慶三

浦 辺 設 計
大阪市中央区北浜 2-1-26
(北浜松岡ビル 4F)

暑中お見舞申し上げます

澤本 侃一郎

株式会社 K&S 総合企画
大阪市西区京町堀 2-2-1
(スマビル10F)

上田 茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房
大阪市北区中津 1-12-3

田中 義久

株式会社 田中都市建築事務所
(TANATOSHI DESIGN NET)
TANATOSHI Osaka 大阪市中央区本町橋 5-14
(OZビル本町橋 902)
TANATOSHI Tokyo 東京都大田区上池台 1-7-16-218

暑中お見舞申し上げます

湯浅 安彦

株式会社 小西設計
大阪市西区立売堀 1-12-16

宮川 明夫

株式会社 総合積算
大阪市北区東天満 1-11-19

亀井 忠夫

株式会社 日建設計
大阪市中央区高麗橋 4-6-2

暑さに負けず、頑張りましょう。

濱田 徹

株式会社 イリア
大阪市中央区城見 2-2-22

尾鍋 裕実

尾鍋建築設計事務所
藤井寺市小山 9-11-17

徳岡 浩二

株式会社 徳岡設計
大阪市北区西天満 6-3-11-205
大阪・東京・兵庫・滋賀・九州

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
大阪市中央区島町 2-4-7

夕立が洗っていつた茄子をもぐ 山頭火

水谷 敢

有限会社 Ms company
大阪市此花区島屋 1-1-40


森田 茂夫

株式会社 東京建物アミニティサポート
大阪市中央区本町 3-4-8

山城 健児

コーナン建設株式会社
大阪市北区大淀南 1-9-10

建設会社

 竹中工務店

取締役社長 宮下正裕

大阪本店 大阪市中央区本町 4-1-13
TEL06(6252)1201
東京本店 東京都江東区新砂 1-1-1
TEL03(6810)5000

 大成建設
TAISEI

For a Lively World

常務執行役員関西支店長 金井隆夫
<http://www.aisei.co.jp/>

横田 友行

株式会社 能勢建築構造研究所
大阪市中央区瓦町 3-3-7
(瓦町KTビル)

米井 寛

株式会社 東畑建築事務所
大阪市中央区高麗橋 2-6-10

一般社団法人 **日本建築材料協会**

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階
電話06(6443)0345(代)
FAX06(6443)0348
支部 関東・中部・中国・四国・九州
http://www.kenzai.or.jp/

一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

会長 太田 隆

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 新トヤマビル3階
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

学校法人 福田学園

OCT 大阪工業技術専門学校
OHSU 大阪保健医療大学
OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL http://www.fukuda.ac.jp

一企画から印刷までトータルにクリエイトします

株式会社 日報印刷

代表取締役 井上 務

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888

オンリーワンプリント 大量に作らなくても印刷。新しい印刷のカタチです。

自由なカタチに切り抜きOK! 1枚からのオーダーOK 大きさ、デザイン自由!

ネットショップ営業中!
http://chuwa.shop-pro.jp/

中和印刷紙器は、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会を応援しています。

CHUWA 中和印刷紙器株式会社
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53 TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188

ナイスジョイント

ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手

ISO9001
ISO14001
認証取得

オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村 政弘

■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466
TEL(0868)28-0171(代) FAX(0868)28-4254

低炭素化の防水仕様で環境へ貢献

■ピロウエルトE新熱工法 ■シグマートE
日新工業株式会社

大阪支店 支店長 北村 克己

大阪支店：〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1-12-22
TEL 06-6533-3191(代表)
本社：〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4
TEL 03-3882-2424(代表)

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法
NAKS, RODEX工法

日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目6番14号(NC芝浦ビル)
基礎事業部 ☎(03)3452-1081 FAX(03)3452-1125
大阪支店 〒542-0081 大阪市中央区南船場4-11-28(Daiwa南船場ビル)
☎(06)4963-6911 FAX(06)4963-6916
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5(エステート名古屋ビル)
☎(052)581-0666 FAX(052)541-2530
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6(神原ビル)
☎(087)897-2984 FAX(087)897-2986

クマリフト エレベーター・ダムウエーター
福祉機器

本社：大阪市西区京町堀1-12-20 TEL：0120-07-0570
http://www.kumalift.co.jp/



石川工場

水の未来・地球の未来
グリース阻集器の・・・

PPi 7パイ工業株式会社

本社・工場 京都府京田辺市大住池嶋25 東日本営業所 神奈川県川崎市中原区中丸9-431
〒610-0343 TEL 0774-63-7247(代) 〒211-0012 TEL 044-431-0408(代)
FAX 0774-63-7248 FAX 044-434-2621
http://www.purepai.co.jp

一般社団法人 **大阪電業協会**

会長 前田 幸一

大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
TEL(06)6363-4077 FAX(06)6363-4079

お客様の満足と価値創造の深化を目指して



一般財団法人

日本建築総合試験所

理事長 辻 文三

〒565-0873 吹田市藤白台 5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
http://www.gbrc.or.jp

住まいに、人に、安心を。
住宅情報相談センター
住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業
住宅展示場の企画・運営
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関



一般財団法人大阪住宅センター

大阪市中央区南船場四丁目4番3号
心斎橋東急ビル4階
事務局 06-6253-0071
http://www.osaka-jutaku.or.jp

理事会報告

文責 本会事務局

日時 六月十七日(水)十六時〜十七時三十分

場所 本会会議室

出席 理事三〇名、監事二名

(1) 会計報告について

四月末日の当期経常増減額は、収益四九、四六五、七七二円、費用二、六八二、四六六円、増減三七、八四七、五二六円を報告して承認された。

(2) インスタレーション部会運営規程について
・連合会が講習団体として国交省に登録し、本会が運営をする共催事業である。
・業務は部会員の責任で行い、部会はその業務報告内容について監修する。

・本会が関与することのリスク管理方法は、今後の検討課題とする。

等々の議論があり、今後運営する中で支障があれば追って改正することで承認された。

(3) 建築士登録等事務規程の改定について
六月二十五日の建築士法改正に伴い、大阪府と協議のうえ、必要事項の改定案を提示した。

・規定条項を詳細に明記する。
・ICBAのデータベースシステムの活用を明記する。

・閲覧規則の公表を明記する。

・名簿の写しの交付手数料を明記する。

・閲覧申請書の様式を明記する。

以上の主な改定点は、いずれも実態に即した内容であり、これを承認した。

(4) 監理技術者講習の実施準備について
監理技術者講習会の開催回数、受講料、PR方法等の考え方について報告した。

(5) 組織名称の変更について

「鑑定業務支援」並びに「マンション維持管理支援」の名称をWGから分科会に変更することを承認した。

建築相談〜消費者の相談から考える

編・構成 橋本頼幸

住宅戸数が不足している時代はとにかく質より量を確保することが最優先にされてきた。

それは社会のニーズに最小限度で応えてきた。時代は進み、量が満たされたとき次にどんな問題が発生するのか。今月は、そんな話題を小松和雄様に提供していただきました。

我が国は現在急速に「少子高齢化」に向けて進んでおり、新築住宅の着工件数も減少すると見られています。一方、既存住宅は空き家が増加し今後は空き家対策が一つの事業とし成り立とうとしています。

しかしながら、既存住宅には「耐震性」や「居住性(間取りや断熱性能等)」をはじめとした非常に多くの課題があります。これらをどのように解消し、住宅の「質」を確保していくべきなのでしょう。

多くの人が終の棲家として建てた住居は、人口数も世帯数も減少している現代では、本当の意味での終の棲家となり、次の世代に相続されず売却されるケースも多くあります。また、売却できずに朽廃化していく住居も少なくありません。これらの住宅ストックを再生し、新しいまちづくりへと転換していくことが果たしてできるのでしょうか？

国の政策で建物の「耐震性」に関しては、①耐震診断 ②耐震補強工事等には補助金が付与される制度構築がなされています。一方で「居住性」を担保する断熱改修などは補助金等も少なく、住宅の温熱環境は改善されず健康被害が発生し、過大に設備機器に依存する高エネルギー住宅となっています。最近「エコミ」などでも「ヒートショック」を耳に

するようになりました。脱衣所や浴室が寒く、入浴時の極端な温度変化により血管が収縮し

最悪死にいたる現象です。昨年度の統計では全国で二万九千人が「ヒートショック」または「ヒートショック」と思われる疾患で亡くなられています。この数字は、交通事故死の約四千人の約五倍近くなっています。住宅の温熱環境が悪いと、このような危険性をはらんでおり、「断熱性能の改善」は社会全体としても大きな課題といえます。最近では、気候変動が激しい影響もあり住宅の温熱環境に対する相談も増えています。たとえば冬場に洗面所や脱衣所が寒いとか、窓が結露する、などの相談です。

断熱性能の改善は、容易に対処できるものではありません。費用面や工事中の生活への影響など、居住者に大きな負担がかかります。また、設計者や工務店などの建築関係者の基本的知識が欠けていることが原因で、十分な工事ができていないケースが多々あります。

しかし、断熱性能の改善の効果は非常に大きく、優良で適切な施工がなされれば、居住者の健康面で大きな変化が感じられたとの意見も多く耳にします。今後は、高齢者をはじめ誰もが安心して「健康で快適に暮らせ、かつ省エネルギー」になる住宅改修工事が増加するでしょう。住宅の「質」を向上させる耐震改修、断熱改修などは、バリアフリー改修と共にこれからの社会にとって不可欠です。

一方で、耐震やバリアフリー改修に比べて、断熱改修はまだまた設計監理者も施工者に技術的に成熟した状態ではないとも感じます。温熱環境やその仕組み、断熱改修の技術など十分な知識や経験を得ることが重要になるでしょう。

小松和雄さんは六月六日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。

編集後記

牧野隆義

建築家の東孝光先生が六月一八日にお亡くなりになりました。八二才でした。私は先生とお会いしたことはありませんが、若き頃東京に行けば必ず先生の作品である「塔の家」を訪れたものです。一度訪れると忘れられない何かを感じ、何度でも訪れたい。記憶に刻まれる「住宅」でした。建築家のリニューアルを二〇一二年におこなった際「建築びと」というインタビュー企画を始めました。初回のゲストの吉村篤一先生が一九六〇年代半ばに坂倉事務所にて東先生と協働されたお話が鮮明に蘇ってきます。御冥福をお祈り申し上げます。

二〇二〇年東京オリンピックまで残すところ五年となり、建築関連の動きも慌ただしくなってきました。中でも一番騒がしいのは新国立競技場です。解体工事が終わり、神宮外苑には青空が広がっています。しかし、この原稿の執筆時点では競技場の建設に関しては未だ最終的な決着に至っていません。空を見上げて思うことは、壊してしまふことは本当に簡単ですが、私たちがここから何を学ばなければならないのでしょうか。

五月末に開催された総会の記念講演では、横文彦先生からご自身の若き頃から近作の話までを一時間にわたりお聞きしました。未来をどのように捉えるのか、個人的には、立ち止まって考えることが必要なのではないかと思えてなりません。



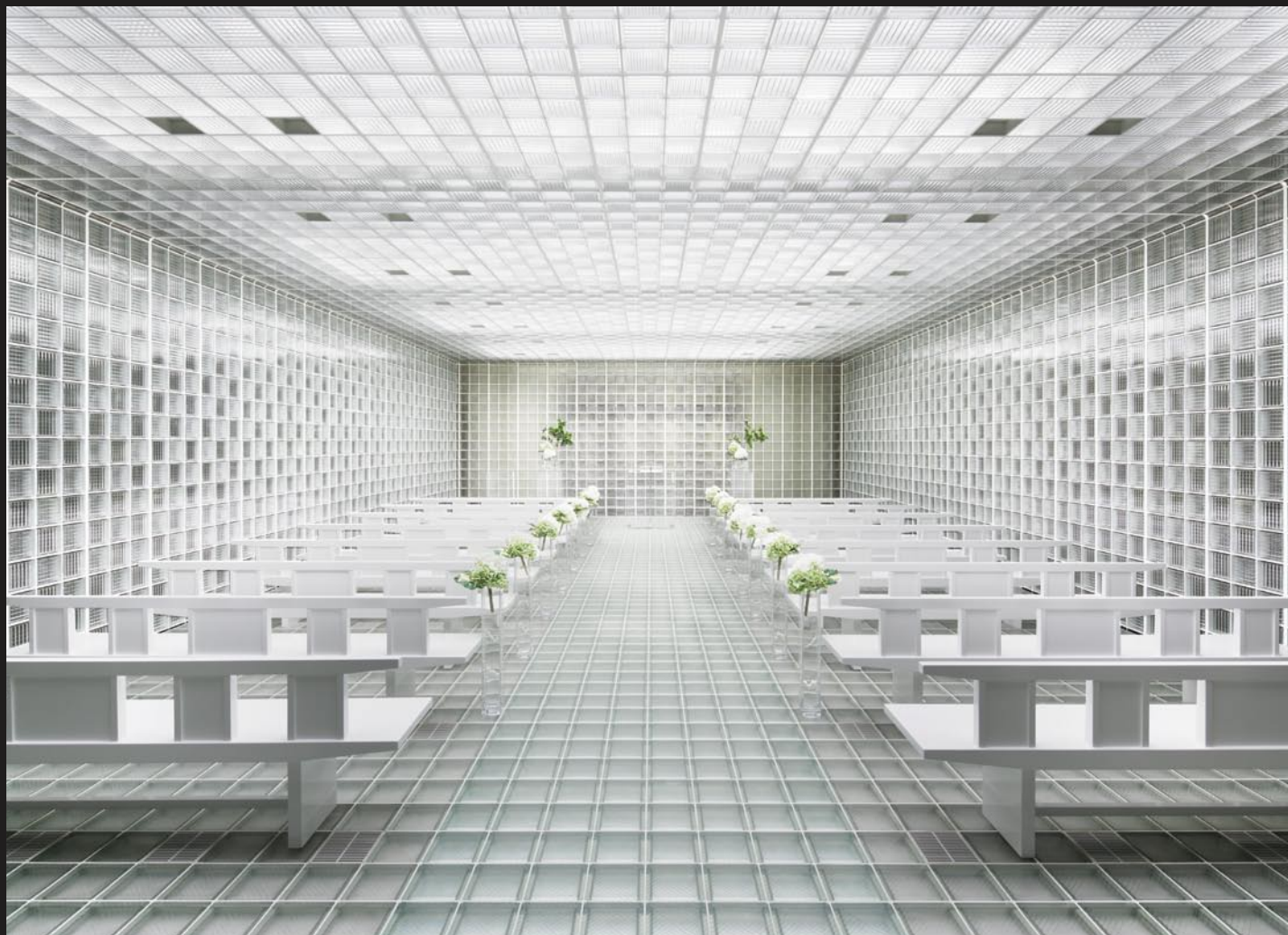
60th with 60 Design

Design more freely and more flexibly

多彩なクリエイターがデザインした水栓レバーハンドルが60種類。自分好みにカスタマイズできる、という新しい発想の水栓です。

もっと自由にフレキシブルに。

SANEIは水まわりから広がるインテリアの可能性をご提案致します。



旧桜宮公会堂 竹中工務店 森田昌宏・野口 伸・足立裕己

旧桜宮公会堂は昭和10年に明治天皇記念館として建設された大阪市所有の洋風建築である。

戦後、桜宮公会堂へ名称を変え、近年は閉館していたが、この度市の再生事業により結婚式場として甦ることとなった。なお、竜山石造りの正面玄関は、明治4年に建設された造幣寮（現造幣局）の玄関を移築したものであり、国の重要文化財に指定されている。

2Fの既存トップライト下に、ガラスブロックの箱を挿入し式場とした。周囲のスペースは、式場から溢れた光により明るく照らされる待合スペースとなる。また、式場入口背面壁には、久住有生氏による大川をモチーフとしたさざ波模様の左官壁をあしらった。1階バンケットは、かつての格子天井を復元し、公会堂の演壇を利用した新郎新婦ステージを設け、歴史を感じられる設えとした。

外構もかつての日本庭園を再生し、歴史的価値の高いこの敷地内の公園施設を、市民に開かれた結婚式場施設として保存する事が出来た。

撮影：ナカサアンドパートナーズ 第34回大阪都市景観建築賞緑化賞受賞作品

■プロフィール

森田昌宏（もりた まさひろ）
1963年奈良県生まれ／1987年京都大学建築学科卒業／1989年同大学院修士課程修了／1989年竹中工務店入社／現在 株式会社竹中工務店大阪本店設計グループ長副部長・京都大学非常勤講師
野口 伸（のぐち しん）
1976年12月27日生まれ／2001年早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程修了／2001年株式会社竹中工務店入社／現在 株式会社竹中工務店大阪本店設計部主任
足立裕己（あだち ゆうき）
1981年鳥根県生まれ／2004年大阪大学工学部建築学科卒業／2006年大阪大学大学院修士課程修了／2006年竹中工務店入社／現在 株式会社竹中工務店大阪本店設計部主任

■建物データ

設計：竹中工務店
施工：竹中工務店
所在地：大阪市北区天満橋1-1-1
用途：集会場（結婚式場）
竣工：2013年3月
構造規模：B1、F3、P0 SRC造
（既存棟）
B0、F2、P0 S造
（増築棟）
敷地面積：6,216.42㎡
建築面積：674.31㎡
延床面積：1,414.58㎡

